

令和6年度 北海道檜山北高等学校 学校評価(学校関係者)

北海道檜山北高等学校

- 1 自己評価(教職員)「取組の適切さ(達成状況結果より)」の評価基準: A(4): 4~3.5 B(3): 3.4~2.5 C(2): 2.4~1.5 D(1): 1.4~1
- 2 学校関係者評価「自己評価の適切さ」の評価基準:
A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である
- 3 学校関係者評価「改善の方策」の評価基準:
A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する

※各項目の取組内容については別紙1を参照願います。

		R6自己評価(教職員)			学校関係者評価(「自己評価の適切さ」と「改善の方策」の評価A~Dを記入)				
		達成状況	取組適切さ	②改善の方策	自己評価の適切さ		改善の方策		意見等がありましたらご記入をお願いいたします。
教育活動全般	(1)	3.1	B	授業公開や学習成果発表会などの公開日の案内を早めに周知する。学校での取組を知ってもらう。	3.2	B	3.2	B	・案内を周知する点をもう少し広げることを検討しても良いかと思います。 ・残念ながら、保護者や関係者以外とは「つながり」が少なすぎる。
	(2)	2.9	B	インターンシップや総合的な探究の時間等での外部との繋がりを強固にし、外部の意見を聞きながらアンケート等のみでなく、有識者との話し合いを実施する。	3.3	B	3.2	B	
学習活動	(1)	2.7	B	教材やティーチングメソッドを互いに共有することで授業準備の負担が減り、授業改善に取り組みやすい環境は作れる。お互いに授業を見合いながら、振り返りの機会を多く作る。	3.3	B	3.2	B	
生徒指導	(1)	2.7	B	挨拶、身だしなみ、言葉遣い等のマナーが身につけていない生徒が増えてきている。今、身につけておかなければいけない大切なことという意識が低下している。教師が模範となり、より愛される生徒の育成を図る。	3.2	B	3.2	B	
	(2)	3.1	B	危機管理体制・危機管理マニュアルの見直しと徹底。引き続き個別の生徒にきめ細やかでエビデンスに基づいた丁寧な指導を推進する。	3.3	B	3.3	B	
健康安全	(1)	3.3	B	援助希求的な態度の育成の徹底。危機管理意識の向上に努め、自ら健康や安全をコントロールすることが出来る資質・能力の育成を図るための講演会の実施。	3.3	B	3.5	A	・特にメンタルの面では他者に相談しづらい事が多いので、講演会やチラシなど生徒の目に触れる機会を増やした方が良い。
	(2)	3	B	危機管理マニュアルの見直し。避難訓練の工夫・改善。学校の外部機関や人材の活用により指導効果を向上させる。	3.5	A	3.3	B	
特別支援教育	(1)	2.9	B	委員会の定期的な実施と檜山専門家チーム・今金高等養護学校等からの定期的な派遣、研修する機会を作る。	3.5	A	3.3	B	
キャリア教育 進路指導	(1)	3	B	地域人材など教育財産の活用。さまざまな場面で活用する。本校での中心となるべきものが何なのかを改めて共有する。	3.3	B	3.2	B	
	(2)	3.1	B	進学講習の機会は1,2年生にもう少し増やした方がよい。春休みや放課後などに行うなど工夫が必要。就学支援金や奨学金についての知識を持ったうえで、進路を考えるためには1・2年次での保護者への説明会が必要。	3.3	B	3.2	B	・地域の人口減少が目立つ中で、卒業後地域に残らない子がほとんど、地域企業と連携し、残るような進路指導もあって良いかもしれない。
保護者・地域との連携	(1)	3.2	B	中学校訪問による説明会(北部4中学校の1,2年対象)や保護者説明会(今中)を実施したことで少しでも知ってもらう機会となったと感じている。HPにて校内の取組や情報を積極的に発信する。	3.2	B	3.2	B	・地域外の学校への進学が目立つ。魅力ある学校のアピールをもっとしたい。PTAとしても協力するので、何かあれば言ってください。 ・関係機関にも発信願いたい。 ・HPのみではなく、もっと地域とのつながりを!
	(2)	2.8	B	地域人材など教育財産の活用。さまざまな場面で活用。特に探究活動での教育活動の充実を図る。	3.2	B	3.0	B	・更に地域の人材・資源を学校目線で再発見して頂きたいと思います。 ・農林水産業の人材の学校訪問による教育・説明も有りだと思います。